

平成19年度倉敷市立旭丘小学校研究活動の概要

1 研究主題

英語科の学習や英語活動を通して、
意欲的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成

2 事業実績

実施月日	研究内容
4月19日	第1回研究推進委員会 研究主題の決定 研究計画策定
4月26日	第2回研究推進委員会
5月1日	第3回研究推進委員会
5月22日	第1回研究全体会
5月29日	学年部検討会
5月30日	第4回研究推進委員会
6月25日	学年部検討会
7月31日	学年部指導案検討
8月2日	校内研修会 講師 中国短期大学教授 名合 智子 先生
8月30日	指導案検討会
9月10日	校内授業研修会・要請訪問（4年）講師 指導課 横溝 紀子 先生
9月12日	校内授業研修会（1年）
9月19日	校内授業研修会（1年）
10月17日	校内授業研修会（3年）
10月22日	第5回研究推進委員会
11月13日	校内授業研修会（5年）
11月22日	先進校視察（東京都江東区立大島南央小学校）
11月26日	校内授業研修会（5年）
11月29・30日	第39回協力指導研究全国大会（東京都台東区立田原小学校）に参加
12月14日	京都市小学校英語活動研究大会（京都市総合教育センター）に参加
1月28日	校内授業研修会（3年）
1月30日	校内授業研修会（2年・6年）
2月6日	校内授業研修会（2年・6年）
2月13日	校内授業研修会（4年）
2月15日	第6回研究推進委員会（本年度の研究成果と課題）
3月12日	第2回研究全体会（来年度の研究について）

3 研究概要

学校名 倉敷市立旭丘小学校

研究の概要

本校は昨年度、小学校英語科の研究推進校に指定され前述の研究主題のもと、小学校英語科と合わせて「グローバルフレンドシップ事業」の授業実践を行ってきた。

本年度も、前年度の研究領域、研究主題を継承し、評価の工夫やソロで行う効果的な授業展開をとおして、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指したいと考えた。先進校の事例や研究成果を収集したり、児童が楽しく英語を学べる教材・教具づくり、そして教室づくり等の環境を整えたりしながら、英語活動や英語科の授業展開における具体的な手立てや方法について全職員で研究・実践を重ねてきた。

低学年部ではコミュニケーションの楽しさや大切さを児童の五感をとおして実感できる授業実践を行った。また中・高学年部では「英語に慣れる環境作り」「活動の工夫」「評価の工夫」の3点から意欲的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に迫っていかうとした。その結果、児童は英語科や英語活動の時間を楽しみにし、ゲームの中では友達と進んでコミュニケーションをとることが多くなってきた。

「環境作り」「評価の工夫」について実践した内容は以下のとおりである。

1 環境作り

- (1) 教室英語の充実 曜日・天気など既習事項の復習 健康観察
授業の始め・終わりのあいさつ 朝の歌 など。
- (2) 行事の紹介の充実 ハロウィン クリスマス など

2 評価の工夫

- (1) 目標を明確にし、目標達成を称揚する。児童の次の学習のめあてにつながるような目標を考える。
- (2) 発音の練習場面でモニタリングを行う。
- (3) 学習の最後に NET と HRT とで単語・会話テストをする。
- (4) ICT (資料 DVD, グループウェア・IC レコーダ) を活用して発音を評価する (自分・友達・NET・HRT)。

研究を進めてきた成果として、グローバルフレンドシップ事業や英語科の学習に積極的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきたこと、また、他校と実践や研究内容を交流することにより授業の進め方を工夫してきたこと、さらに、教材・教具・参考資料などの学習環境を少しずつ整えてきたこと、等があげられる。

一方、アルファベットの表記・発音法 (フォニックスの基本) の導入など、中学校の学習内容との関係を整理するなど、研究の課題も浮き彫りになってきた。

今後も他校の授業公開参加など、実践交流の場をとおして本校の研究をさらに進めていきたい。